

## 介護施設における制度関連 | 介護サービスの種類：日タイ比較（1/2）

- タイでは、大きくは日帰りの「Day Care」、短期入所の「Rehabilitation Home」、長期入所の「Nursing Home」の3種類しか介護制度上は存在しない。日本は各種制度のもとサービスの分化が進んでいる。
- 訪問サービスについては、富裕層向けの病院の看護師をダイレクトに自宅に雇うケースのほか、介護士の派遣サービス、訪問リハビリなどのサービスが徐々に出てきている。
- 施設サービスについて、日本は目的に応じて施設が分かれているが、タイでは主に所得水準によって利用する施設が分かれる。タイの病院は日本よりも早期に退院となるケースが多いため、日本での回復期病床での役割を、タイでは介護施設が担っている。即ち、タイにおける介護施設はカバー範囲が非常に広く、潜在的なマーケットも非常に大きいと考えられる。

	サービスの分類									
日本	居宅サービス				施設サービス					地域密着型サービス
	訪問介護	通所介護 (デイサービス)	短期入所 (ショートステイ)	その他	病院病床 (回復期・療養)	介護医療院	介護老人保健施設	特別養護老人ホーム	有料老人ホーム・サ高住等	各種
タイ	民間の派遣サービスが存在	“Day Care”	“Rehabilitation Home”	介護専門ではない業者がカバー	“Nursing Home” 公共の養護施設（低所得層向け） 民間Nursing Home（中高所得層向け）				高齢者用住宅	タイでは該当事業ほぼなし

## 介護施設における制度関連 | 介護サービスの種類：日タイ比較（2/2）

- 2021年の新しい規制により、タイでの介護施設事業はその制度基盤ができたと考えられる。
- タイにおける介護施設は日本ほどの分化が進んでいないため、比較的病院に近い役割から、高齢者の生活の場としても役割まで、幅広い役割を持っている。
- 一方で、タイにおける介護施設は基本的に一切の医療行為を行わない場所として制度上は定義されているため、制度と実態に乖離が見られる。実態としては、インスリン注射、酸素投与、血糖測定、採血などの医療行為が介護施設ではどうしても発生してくる。今後、制度がより複雑化することで、実態に合った規制へと改善されていくことが予想される。